

～ はじめに ～

2024 年、民間の有識者からなる「人口戦略会議」は、2050 年までに 20 代から 30 代の女性人口が半減し、全体の 4 割にあたる 744 の自治体を「消滅可能性自治体」として発表しました。2014 年に発表された同様の分析と比較すると自治体数は 152 減ってはいるものの、依然として人口減少問題は予断を許さない状況にあります。

本市は、「消滅可能性自治体」ではありませんが、2022 年に初めて全国の合計特殊出生率 1.26 を 0.03 ポイント下回りました。これまで以上に子どもを持つことへの不安の解消や、負担の軽減を図っていく必要があります。



一方、国では 2023 年にこども家庭庁が発足し、「こども基本法」や「こども大綱」が新たに制定されるなど、“子ども政策”の大きな転換期を迎えています。とりわけ、子どもや若者が権利の主体であることが重要視され、その社会参画や意見表明の機会を充実させることに力を入れています。

本市では、そういった機会をいち早く取り入れるべく、2020 年度から「みんなの制服プロジェクト」という制服改革事業を実施しました。制服のデザインの決定にあたり、当事者である中学生の意見を積極的に取り入れてデザイン候補を絞り込んだ後、小中学生みなさんの投票で最終決定することで、子どもたちの社会参画意識の醸成のきっかけになったと感じているところです。

こういった状況を踏まえ、子育て世帯を中心に施策をまとめたこれまでの「第 2 期一宮市子ども・子育て支援事業計画」を、子どもや若者といった当事者に対する施策を加えた、子ども全般に関する総合的な「一宮市こども総合計画」として新たに策定いたしました。

今後はこの計画に基づき、子どもたちのウェルビーイング（幸せな状態）と、子育て世帯にとって住みよいまちをめざしていくために、市民の皆さまを始め、学校や地域、各種事業者などの関係者とも連携しつつ、計画に掲げた施策に着実に取り組んでまいります。

最後に、本計画の策定にあたり、意見聴取ボードやワークショップで意見を寄せていただいた学生の皆さま、アンケート調査にご協力いただきました保護者の皆さま、子ども・子育て審議会で熱心にご審議いただきました委員の皆さま、ならびに関係各位に対しまして、心からお礼申し上げます。

2025 年 3 月

一宮市長 中野 正康